

EARLY IMARI BIG BANG



そして、未知の
芸術が誕生した。



開館45周年記念 特別企画展

初期伊万里ビッグバン — 日本磁器始まりの全貌 —

2025
(令和7)年 10/4(土)—12/7(日)

9:00~17:00 (入館は16:30まで) 月曜休館 (祝日は開館、翌日休館)

〔観覧料〕800円 ※高校生以下及び障がい者手帳又は指定難病受給者証をお持ちの方とその介助者(1名)は無料

主催 佐賀県立九州陶磁文化館

協力 有田町教育委員会、公益財団法人今右衛門古陶磁美術館、伊万里市教育委員会、唐津市教育委員会、久留米市教育委員会、
佐賀県立図書館、佐賀県立名護屋城博物館、佐賀大学附属図書館、多久市教育委員会、多久市郷土資料館、
武雄市教育委員会、東京国立博物館、公益財団法人鍋島報効会、個人所蔵者



芸術文化振興基金

〈上から〉染付木菟形香合(個人蔵)、染付竹虎図大鉢(東京国立博物館所蔵／Image: TNM Image Archives)、染付山水文大鉢(個人蔵)、青磁瑠璃釉人形香炉(卯即斎コレクション)





染付布袋図皿
1640年代頃／肥前 有田／東京国立博物館所蔵
Image : TNM Image Archives



染付鳳凰文壺
1630～1640年代
肥前 有田
個人蔵



染付蝶文輪花小皿
1620～1630年代
肥前 有田／個人蔵

LYMAKI

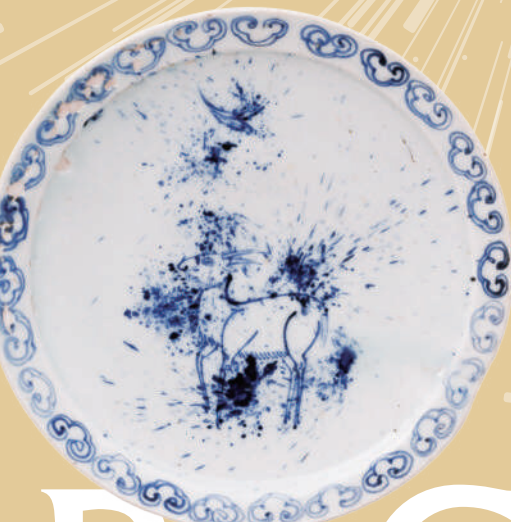
開館45周年記念 特別企画展

初期伊万里ビッグバン — 日本磁器始まりの全貌 —

今から約400年前、それまでの日本になかった技術が朝鮮半島から導入されて白く硬質な磁器が開発され、産業として急速に発展しました。近年の研究により、最初期には多久や伊万里で磁器の開発が試みられましたが、有田で爆発的に生産が発達したことが分かってきました。本展覧会では初期の磁器生産に焦点をあて、現代を生きる私たちをも魅了する初期伊万里の優品と、草創期の技術開発の様子をうかがい知ることができる資料から、これまでの研究成果をもとにその起源と発展の真相に迫ります。



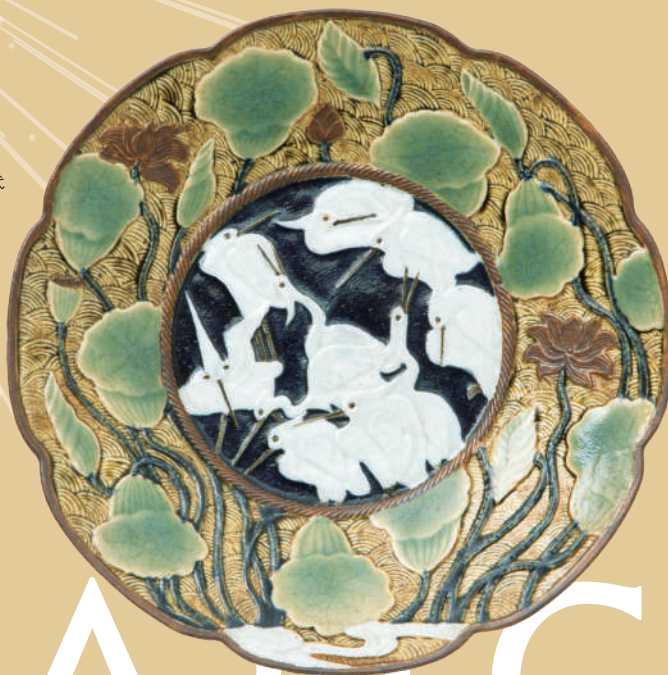
白磁碗底部
1600～1610年代／多久高麗谷窯跡出土
多久市教育委員会所蔵



染付吹墨山羊文皿
1610～1630年代／肥前 有田／個人蔵



染付松文瓶
1630～1640年代
肥前 有田
個人蔵



銑瑠璃青磁釉蓮葉文輪花三足皿
1640年代／肥前 有田／佐賀県立九州陶磁文化館所蔵
小荷田謙一氏寄贈／佐賀県重要文化財

講演会

イベント

〈記念講演会〉

「肥前磁器始まりの全貌」

講師：大橋康二（当館名誉顧問）

10月5日（日）14:00～15:30 当館講堂

※上記以外にも会期中にセミナーや特別イベントを開催予定です。詳しくはホームページをご覧ください。

〈ギャラリートーク〉

館長によるスペシャルギャラリートーク

講師：鈴木由紀夫（当館館長）

11月1日（土）14:00～15:00

●JR佐世保線、MR松浦鉄道：有田駅から徒歩約12分

九州陶磁文化館へお越しの際は、急な上り坂があります。足元に不安のある方は、タクシー等の利用をご検討ください。

●佐賀空港からリムジンタクシーで約80分（要予約）

●西九州自動車道：波佐見・有田インターから車で10分

●無料駐車場 300台

佐賀県立九州陶磁文化館
KYUSHU CERAMIC MUSEUM

佐賀県西松浦郡有田町戸杓乙3100-1 TEL 0955-43-3681
Email kyuto@pref.saga.lg.jp https://saga-museum.jp/ceramic/

